



1_高木小3年の児童による花笠音頭
2_太鼓を叩きながら、会場入り！
3.4.5_各地域からカラオケや踊り、日本舞踊で会場を盛り上げた 6_肥後にわかんの爆笑コント 7_レビューチーム風によるキレイのある歌やダンス 8_元気いっぱい高木保育園の園児たち

第10回高木ふれあい祭り

11月11日、「復興応援」～頑張ろう高木、笑って復興～をテーマに第10回高木ふれあい祭り（木村定徳高木分館長）が開催されました。開会では、木村分館長は「祭りを最後まで楽しんでいただき、笑って帰ってもらいたい」とあいさつ。太鼓塾響座の力強い太鼓で幕を開きました。地域住民は日本舞踊やカラオケなどを披露。その後、ぼってん城次らによるわかコントやレビューチーム「風」による鮮やかな動きで魅了した歌、ダンスが披露されました。最後はお楽しみ抽選会で会場は盛り上がり、参加者は笑顔でいっぱいでした。幕を閉じました。



子ども一人一人の未来について考えてみませんか

里親が語る子育て座談会

11月11日、里親さんが実際に子育ての体験談を話し、現代の子育てについて広く考えるきっかけとなる座談会が町カルチャーセンターで開催されました。特定非営利活動法人優里の会（八谷斉理事長）が主催の中、里親になったきっかけや、里親になってからのたくさんの人たちと出会いなどの体験談を語りました。体験談を話した里親さんは「血のつながりというよりは、一緒にどれだけ過ごしたかが大切だと思う。里親になるため、一歩踏み出す勇気を」と話しました。



子どもたちに語りかける森田さん

戦争の経験を語る

11月13日、ルソン島マニラ防衛戦で生還された森田義員さん（木倉出身）が戦争での経験をもとに木倉小学校の児童たちに講話されました。森田さんは昭和17年（当時17歳）に海軍に志願し、翌年には出征されました。講話では、戦場での命のかけひきや生きるための壮絶な体験を話し、「戦争は絶対やってはいけない」ということを児童たちに強く訴えました。吉田百花さん（6年）は「戦争の愚かさや平和の重要性、そして命の大切さを改めて学びました」と話しました。



1.2_熊本を想い、熱唱した演歌歌手の松山順さんと山本譲二さん
3_老人クラブ大会の全体の様子 4_会場を笑いで埋め尽くしている

熱く盛り上がる老人クラブ大会

11月9日、平成30年度御船町老人クラブ大会（本田良一会長）が町スポーツセンターで開催され、大会には、約800人の会員が参加しました。始めに、演歌歌手の松山順さん（球磨郡あさぎり町出身）が熊本の復興を願った「～災害復興～輝け熊本城」などの曲を熱唱。そして、演歌歌手の山本譲二さんが登場しました。会場は割れんばかりの大歓声。山本さんは大ヒットを記録した「みちのくひとり旅」などの曲を歌ったり、歌手の吉幾三さんの等身大パネルと一緒に歌うなど、時折、笑いも入れながら、会場を盛り上げていました。会員たちは、演歌の魅力に引き込まれていました。



防災訓練で情報連携

11月10日、熊本県総合防災訓練の一環として、町役場災害対策本部を中心に、県、御船警察署、上益城消防署、町消防団、2丁目区との災害訓練が行われました。これは、災害時に地域の情報収集・集約・共有を目的としたもの。町指定避難所ホンダ介護サービスでは、2丁目区（塩山紘一区长）自主防災組織による避難所開設の訓練を実施しました。地区では、連携をとりながら独居老人を対象とした安否確認や負傷者を想定した救助訓練などを実施。塩山区長は「訓練を実施して自分たちの役割を再確認した。地域のリーダーは常に危機感を持たなければならない。今後も訓練を続けていきたい」と話しました。上益城消防署では、町消防団員がエンジンカッターやスプレッダーなどの資機材を使った訓練を行い、技術の向上を図りました。町では、来年、救助資機材搭載積載車が導入され、消防団による救助作業の幅を広げ、災害時に備えます。



1.2_救助資機材を使った訓練をする町消防団
3_安否確認の様子 4_負傷者をリアカー移送 5_班員に指示をする塩山区長